

## 脳脊髄液減少症に関する要望書

### 1. 要望要旨

脳脊髄液減少症を診療する病院の実態調査、及び北海道庁ホームページにて診療病院を公開するよう要望する。

### 2. 理由

国に対する脳脊髄液減少症の治療推進と研究・保険適用を要請する「意見書」が、2006年に北海道議会、札幌市議会から提出されたのをはじめ、その後多くの自治体で同趣旨の意見書が国に提出されました。

脳脊髄液減少症は、交通事故やスポーツ外傷、落下事故などによる頭部や全身への強い衝撃によって脳脊髄液が慢性的に漏れ続け、頭痛、首や背中の痛み、腰痛、目まい、吐き気、視力低下、耳鳴り、思考力低下、うつ症状、睡眠障害、極端な全身倦怠感などさまざまな症状が複合的に現れる病気であります。

この病気は、これまでは原因が特定されない場合が多く、「打撲」あるいは「うつ病」と誤診されることも少なくなかったが、近年、このような症状は脳脊髄液の減少に起因する場合があることが究明され、この病気に対する治療法・ブラッドパッチ療法も開発されてきました。

しかしブラッドパッチ療法は、未だ保険適用されず、この治療を行う病院が全国的にも少なく、遠方まで治療を受けに行かなければならない状況であり、患者の精神的・経済的負担は大変大きなものとなっております。

また、18歳以下の低年齢層の患者は、成人男性に比べ、適切な対応が難しいケースが多いため、現在、低年齢層患者の治療を実施している医療機関は、全国でも数箇所のみとなっております。

このような状況下で全国に先駆け、新潟県が県内の病院に実態調査を行い、治療を行っている病院をホームページで公開し、県内の患者さんやご家族、関係者から高い評価を得ることとなりました。

つきましては、上記の諸条件に鑑み、北海道においても道民の患者さんらの救済のため、脳脊髄液減少症を公開するよう強く要望いたします。

平成19年(2007年)7月 5日

脳脊髄液減少症患者支援の会 北海道  
代表 石郷岡 縁

北海道知事 高橋 はるみ様

北海道教育長 吉田 洋一様